

人権教育
ともに生きる 125
〈人とのつながり〉

最近、自然災害の恐ろしさを痛切に感じます。7月には集中豪雨、その後は、梅雨も明けてないのに、強い台風4号がやってきて、九州では被害もできました。そして、新潟では地震が発生し、多くの方が負傷され、また、亡くなられた方もいらっしゃいました。本当にたてつづけに、災害に見まわられました。いつも思うのですが、自然災害の前では、人間はどうすることもできません。無力さを感じます。しかし、人間どうしの支えあい、人とのつながりの大切さも再確認します。やはり、普段の近所づきあいが必要です。「遠くの親戚より近くの他人」とよく言い

ますが、そのとおりではないでしょうか。そうは言うものの、最近では、地域での関わりや、コミュニケーションが薄れてきているとよく言われます。「対岸の火事」という風潮が強いように感じられます。ご存じのように、人は一人では生きていきません。誰かに支えられ、助けられて、生きていけるのです。まず、挨拶からコミュニケーションを始め、みてはいかがですか。朝のすがすがしさに負けないくらい「おはようございます」を大声で言ってみましょう。

野田陽子



図書館へ出かけよう。

【休館日】 9 / 3(月) 10(月) 17(月) 23(祝) 24(月) 10 / 1(月)
【月末整理】 30(日)はお休みします。

話題の新作 おすすめの本



風雲の人 小説・大隈重信 青春譜 山崎 光夫 作

政治家や教育者としての大隈重信のことは広く知られている。本書では、無鉄砲で泣き虫の幼少期から、退学処分になった藩校時代や幕末期の佐賀・長崎での若き日々を中心に描いている。

12歳の文学

小学館・編

12歳限定の文学賞というまったく新しい公募小説新人賞「12歳の文学賞」に、全国の小学生から数多くの作品が寄せられた。三次選考を経て受賞した作品を掲載。佐賀県からも1人受賞している。



おへそのあな 長谷川 義史 作

赤ちゃんはお母さんのおなかのなか。お兄ちゃん、お姉ちゃん、お父さん。そして、お母さん。みんな、赤ちゃんが生まれてくるのをとても楽しみに待っています。あたたかな家族を感じる絵本です。

新着図書紹介

- ◆朝日のようにさわやかに (恩田 陸)
- ◆さいでっか見聞録 (富安 陽子)
- ◆林檎の木の下で (アリス・マンロー)
- ◆声で読む論語・孟子 (鎌田 正)
- ◆大人の切り紙のほん (矢口 加奈子)
- ◆トコトコさんぽ (スズキ コージ)
- ◆ぼくらの妖怪封じ (香西 美保)
- ◆黒ばらさんの魔法の旅立ち (末吉 暁子)
- ◆ジジきみと歩いた (宮下 恵菜)
- ◆観察でわかる地学 (福地 孝宏)

市民文芸

《麦の芽短歌会 多久麦の芽五選》

わが髪に触りて吹ける薫風は
遠き記憶の春に相似て
闇の中ふつりと螢の遊び
青き光に魅せられて佇つ
咲きて散る木槿に向ひこの半年
逝きたる三人の面影を追ふ
愚痴一つ言えぬ一人の辛さゆえ
胸に納める我が身の切なさ
年毎に節くれだちて吾が指に
和裁の指輪さつくなり来ぬ

木村 則子
田淵ミチ子
内田 龍子
本田 静香
川浪 信子

《あざみ俳句会 あざみ俳句会五選》

ほろ酔いに襟元弛ぶ宿浴衣
旅土産嫁より届くアロハシャツ
園児等の七夕飾り無人駅
世も変り新種の増へし草を刈る
雑草を枕に瓜の横たわり

中嶋 清子
武富 律子
田代ひろ子
田中 惇子
中尾 和弘

《多久川柳会 西山残月選》

西母屋外様が占めた国技館
言い訳は用意したのに聞かぬ妻
雨なのに傘もいらぬ車族
苦しくも楽しくもある日々暮らし
ほどほどに頼り頼られ老いの道

富安 正喜
松下 修
井上 東子
武富 庸平
高塚チカ子